

大好きな男の子の
絵をかきました。

養護学校 小学部
6年 女児



障がい児の 防災を考える 一冊

養護学校／聾学校保護者へのアンケート調査より



2005年度 防災教育チャレンジプラン助成事業

助成主催： 2005年度防災教育チャレンジプラン実行委員会
後援： 内閣府・総務省消防庁・文部科学省・国土交通省・
全国市長会・全国町村会・日本赤十字社・
全国都道府県教育委員会連合会

『障害児のための防災』を考えるプロジェクト

主催団体——NPO法人 ピーす
後援——堺市、堺市社会福祉協議会、
堺市身体障害者（児）団体連絡協議会
助成——2005年度 防災教育チャレンジプラン助成事業

目次

はじめに	1
🌀 どんな障害児にアンケートをしたか?	2
🌀 災害が起きた!その瞬間・知的／発達障害児は?	4
🌀 学校で被災した!	5
🌀 家族以外と外出中、町で被災したら?	7
🌀 障害児の防災・まとめると	10
🌀 障害児家族として、こんなことをお願い	11
🌀 まとめ～障害児の防災とは	12

障がい児・者の家庭支援をする
特定非営利活動法人

ぴーす



ぴーすは
障がい児・者本人とその家族の
「たのしい暮らし」を支援する法人です。
スタッフのほとんどは「障がい児の母親」。
当事者としての感性を大切に、
各家庭が「障がいと上手につきあい、
自分達らしく暮らす」ことを
応援しています。

『障害児のための防災』を考えるプロジェクト

きっかけは去年の初冬のこと。新潟中越地震のことが連日報道される中、あるスタッフ（障害児の母）がポツリと言いました。

「避難所が無理で、車で暮らしてる障害児がいるんだって。きつとウチもそうなるわ」

私達は日頃からいろんな「大変！」がある障害児子育てをしています。新潟から届く障害児家族の苦労は、とても人事とは思えない話ばかりでした。もし堺市に大地震が起きたら、きつと私達も同じ思いをする……大きな不安が広がりました。

「障害児家族がするべき防災ってなんだろう？ 欲しい対策ってなんだろう？ それを探ってみよう！」私達はそんな思いから『障害児のための防災』を考えるプロジェクトを開始することにしました。具体的には、2005年度の防災教育チャレンジプランの実施団体として、勉強会／アンケート調査／シンポジウムを実施することになりました。

この冊子はそのアンケート調査の結果から見えてきたことを抜粋し、まとめた物です。これが今後の障害児家族をはじめ関係各位の防災に少しでも役立てばと願っています。

平成18年1月

NPO法人ぴーす 理事長
小田 多佳子

🌀 どんな障害児にアンケートをしたか？

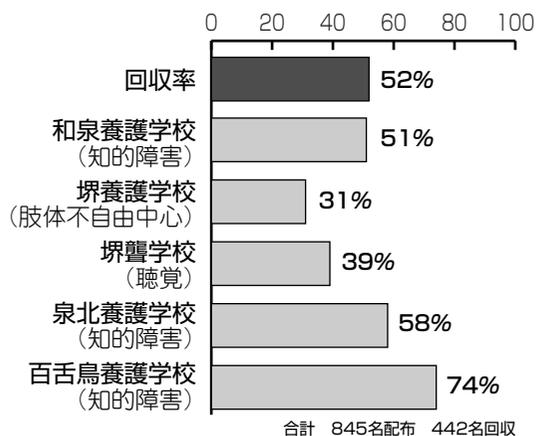
障害児には、健常児と同じ小中学校に通う子と盲学校・聾学校・養護学校に通う子に分かれます。今回のアンケートは、対象を堺市の子どもが通う養護学校と聾学校に絞り実施しました。

大阪府立和泉養護学校／堺養護学校／堺聾学校／
泉北養護学校／堺市立百舌鳥養護学校、以上5校

●学校によって、回収率が違う…？!

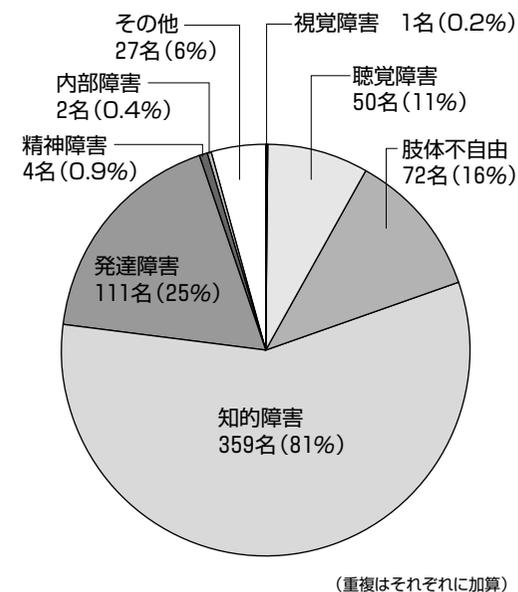
実施してみると、5校の回収率に差が出ました。回収率が高いのは知的障害児対象の学校です。この差は「被災への危機感」の違いのようによろしく思われます。

例えば、肢体不自由は歩けないなど外見で障害がわかりやすい、聴覚障害は聞こえないなど説明がしやすいけれど、知的障害は外見ではわかりづらく、周囲に説明することが難しいです。そのため「わかってもらえないのでは？」「的確な援助は受けられないかも」などの不安から危機感が一層大きくなり、回収率が高くなったように思われます。



●養護学校／聾学校にいるのは、どんな障害児？

子ども達の障害種別を聞いてみました。2つ以上の障害がある場合はそれぞれ加算して集計しました。結果は81%の子どもが知的障害を有した25%は自閉症などの広汎性発達障害があることがわかりました。



年齢が上がり事故／病気／加齢などで障害を抱える場合は身体障害が多いですが、子どもに絞って考えると、多くの子が知的障害や発達障害を有する、つまり知的障害／発達障害への対策が必需になります。

しかし一般的な障害者への防災対策を考えると、車椅子使用者や聞こえない／見えない人への工夫など身体障害への対策が多く、知的や発達障害への対策はあまりないように思われ、それが障害児家族の不安を大きくしているのでしょう。

そこでこの冊子は、知的障害／発達障害を支援する視点でデータを抜粋し、まとめてみたいと思います。

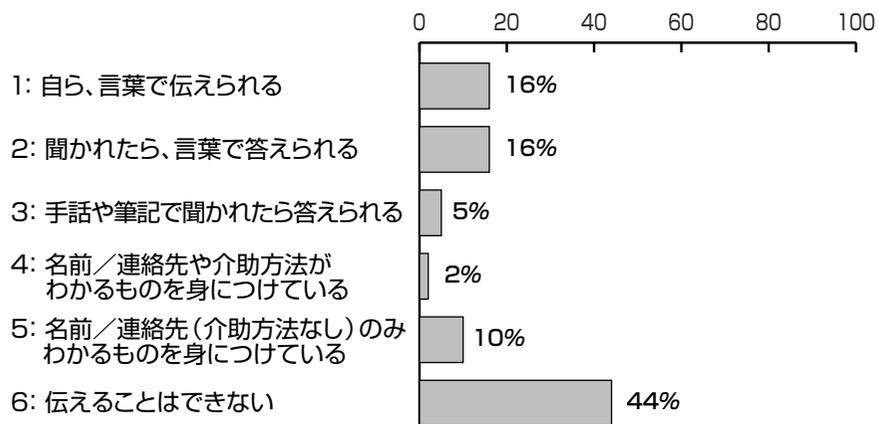
🌀 災害が起きた!その瞬間・知的／発達障害児は?

被災した瞬間、障害児自身が「名前や住所、助けてほしいこと」を他者に伝えられるかは重要なポイントです。そこで障害児のコミュニケーション能力について聞いてみました。

下表の1～3(37%)は言葉あるいは手話筆記で伝えられる＝コミュニケーションがとりやすい子どもであり、家族と離れた状況で被災しても周囲の工夫があれば自分で伝えることができます。しかし4～6(56%)はそれができず、家族などが側にいない状況で被災すると的確な救出や援助は難しいでしょう。

この場合、4の「本人の情報がわかる物を身につけている」ことが望まれますが、2%しかいません。また5の「名前／連絡先がわかる物を身につけている」も10%と少ないです。

逆に何も工夫していないため「伝えることができない」は44%となっています。ここに「家族自身が自分ら工夫する」ポイントがあると思われる。



4

🌀 学校で被災した!

養護学校／聾学校の校区はとても広いです。学校で被災した場合、子どもが安全に速やかに家族の元へ戻れることが大切かと思いますが、地域の学校と違いすぐに迎えに行くことができません。そこで次のような質問をしました。

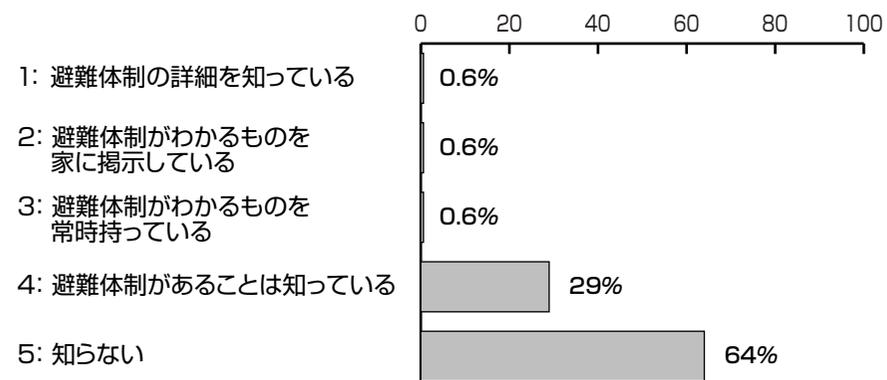
●子どもはどうしているか、知ってる?

各学校には避難体制があります。それを家族が熟知していると、見通しがもて的確に動けることでしょう。

では家族は体制をどこまで知っているか? 下表の1～3が体制を熟知している人です。残念ながら合わせて2%ほどしかいません。逆に避難体制があることを「知っている程度」あるいは「知らない」人は93%です。

この点は「家族自身が工夫すること」ことであり、そのために各在籍学校に「避難体制を保護者に伝える工夫」があればよいのではないかと思います。

またそれはスクールバスによる登下校にも同じ事が言えるでしょう。



5

●あなたはどうする？

学校で被災した時、家族はどうするか？ を質問しました。

学校との電話連絡に頼る意見が多いです。これも学校の場所が自宅から遠いため「すぐには迎えにいけない」ので、まずは子どもの状態を確認したいという気持ちからでしょう。

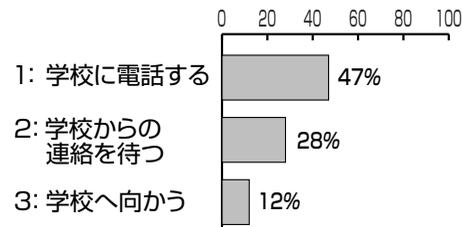
しかし災害時は電話が通じなくなると考えられます。それにより余計な混乱が起きたり、的確な対応ができなくなると推測されます。

この点は「家族への連絡方法」が検討されるとよいと思われます。また防災マニュアルの内容は、各学校／保護者ともに毎年確認することがよいと思われます。

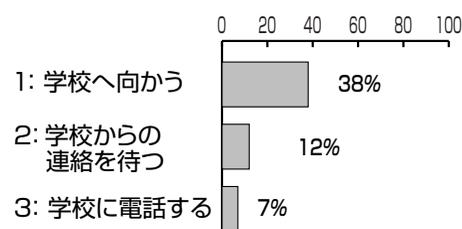
※災害時の連絡には、災害用伝言ダイヤルや伝言板があります。

それらの利用も検討するとよいと思います。

まず、最初にどうするか？



次に、どうするか？



🌀 家族以外と外出中、町で被災したら？

家族以外に、誰と外出しますか？ と質問しました。すると一番多かったのは、ヘルパー 35%でした。

これは平成15年度より始まった支援費制度により児童も移動介護を利用できるようになり、ヘルパー利用で外出している人が多くなっているからでしょう。

そこで家族に、ヘルパーに何を望むかを聞いてみました。最多回答は「親へ連絡してほしい 85%」次に「安全な場所へ避難 84%」「身の安全を確保 25%」「本人に説明／納得 24%」で、意外と少ないのが「連れて戻ってきてほしい 16%」「周囲の集団にまじり、まとまってほしい 8%」でした。

これには「周囲の集団にまじることは逆によくない＝本人が混乱し周囲に迷惑がかかるのでは」「連れて戻る途中で問題行動を起こすと危険では」という不安があると思われます。

「身の安全を確保し、本人に説明／納得をさせ、本人にとって安全な場所へ移動をし、親に連絡をする」ためにはヘルパーに「外出中の防災知識」が必要になると思います。また被災時のヘルパーとの連絡／避難方法を決めておく必要もあると思われます。

被災後の避難生活～何が不安？

避難生活は、障害児家族にはとても不安が高いものです。そこで具体的に何に不安を感じているかを聞き取りました。以下は回答が30%以上あったものです。

食事	食料の確保ができるか？	77% ●
就寝	本人といっしょに寝る場所の確保ができるか	63% ●
医療	障害を理解した医師の診察や相談が受けられるか？	52% ○
その他	避難所にいることができるか？	51% ○
その他	周囲に「迷惑」と思われるのでは？	50% ○
医療	障害を理解した看護師がいるか？	45% ○
過ごし方	横になれる場所の確保ができるか	44% ●
移動	危険がわからないので、危ない場所に行くかも	43% ◆
その他	避難の意味がわからず喜んだり騒いだりしないか	37% ◆
移動	一人で出かけ行方不明になったら探してもらえるか	33% ◆
食事	列に並べないので食料物資が手に入るか？	32% ◆
就寝	場所が変わると寝ないのでは？	32% ◆
就寝	就寝時間に奇声をあげるので迷惑では？	32% ◆
移動	集団で移動するのが難しい	32% ◆
過ごし方	やることがないと問題行動を起こしそう	31% ◆

右の印は、次の3つの項目に分けた印です。

- 確保／物や場所を確保できるかという不安
- 理解／周囲に障害を理解してもらえるか
- ◆ 行動／障害の特性や問題行動についての不安

印をつけると、興味深い結果が！

一番多かったのは「食料と寝る場所の確保」に不安を感じている人、60%以上います。その次は「理解」への不安。医師／看護師の理解があるか、地域の人が「迷惑と思わず」理解をしてくれるか？の不安が50%近くあります。その次に続くのが、本人の行動面の不安。危険がわからない、奇声を発する、行方不明になるなど、様々な理由で不安があります。その数字が約30%、障害種別を見比べると「広汎性発達障害児」25%に近い数字です。広汎性発達障害児には行動面の特異性があるので、そのため家族が不安として回答したとも推測できます。

3つの不安「確保／理解／行動」の中で、「理解」は家族だけの努力でどうすることもできません。普段から地域／社会の知的障害に対する正しい理解が進む事を切に願います。

また行動については、障害の特性ゆえに起こす行動であるのでなくすことは難しいですが、それぞれの行動に対応する支援方法があると、軽減されることがあるかもしれません。支援する側だけでなく、される側の私達も共に、今後「具体的支援方法の検討」がなされることを願います。

最後に、家族各自の努力で軽減できるのは「確保」だと思われます。自分達に必要な物をできるだけ用意しておくこと。特に障害児だからこそ必要な物は自分達で準備するという気持ちが大切であろうと思われます。

🌀 障害児の防災・まとめると

●家族／自分達は何をしておくべきか

(1) 被災した我が家は何に困るか？ これは各ご家族によって違います。まずは家族で「防災についての話し合い」をしましょう。障害のある子どもさんにも「わからない」と決めつけずいっしょに話し合い、子どもと家族のニーズを明確にしておきましょう。

(2) 次に家族のニーズを踏まえ、基本的な防災をしましょう。これは一般家族と同じ内容なので、積極的に勉強し準備をしましょう。

(3) こだわりの遊び道具、お気に入りの食器や寝具、サイズが特殊な服やオムツなど「我が子特別の物」も、防災用品の中に入れておきましょう。

(4) 変化に弱い子は、時々避難訓練として、いつもと違う場所での食事や就寝の練習をするとよいでしょう。車を避難場所にするのは「エコノミークラス症候群」を招く恐れがあるので別の方法を考えましょう。我が家以外の場所での宿泊練習やテントと寝袋で寝る練習などはよいと思われます。

(5) 自分から正確にコミュニケーションできない子は、支援物を携帯しましょう。「手話で話す」ことを相手に示すものなど、筆記道具、自分から伝えられない子は、防災カードなど本人情報がわかるものを身につけましょう。

(6) 学校防災対策などはすぐ見られる場所に掲示などしましょう。ヘルパーと連絡や対応の方法を話し合いましょう。

(7) 養護学校／聾学校の子どもは地域でのつながりが薄いです。難しい事ですが、いざという時に助けてくれる人がたくさん現れるよう、普段から積極的に町に出て、理解者を増やしましょう。

🌀 障害児家族として、こんなことをお願い

●在籍している養護学校／聾学校へ

できるなら防災体制は毎年保護者が確認できるよう工夫があればいいかと思います。また保護者への連絡方法も電話以外の方法があればと思います。

※災害用伝言板などの利用を検討してください。

避難生活は慣れぬ暮らしになるので、慣れた学校が早く使えると子ども達も落ち着けると思います。そこで授業がなくてもよいので、できるだけ早く学校を利用できるよう検討いただけるとうれしいです。

※障害児が気兼ねせず集まれる場づくりを検討ください。

●地域の小学校へ

障害のある子はアナウンスや話しかけなどの聴覚情報が苦手です。できるなら案内などは視覚的掲示物(文字／イラスト／シンボル)などにしてもらえると助かります。

また発達障害の子に多いパニックなどは、狭くてもよいので一人になれるスペースがあれば緩和できます。それも合わせて検討していただけるとうれしいです。

●地域にお願いしたいこと

養護学校／聾学校の子は地域とのつながりが薄いです。私達も積極的に町に出るよう努力しますので、こんな子いるよ!を知ってください。

●堺市にお願いしたいこと

児童の災害弱者は、知的障害／発達障害が多いです。ぜひ知的障害／発達障害対象の、防災対策を考えてください。

🌀 まとめ～障害児の防災とは・・・

私達は今回の調査で、家族として「まずは自分達でできる防災準備を」「災害弱者であるからこそ、防災により一層関心を持つ」ことが重要であると思いました。我が子のため、しっかりとした準備をしておくことで、いざという時に「地域の避難活動に役立つ」一人になりうるかもしれません。

とはいえ、自分達でできることには限りがあります。例えば「物資」などは自分達で最低限の準備ができるでしょうが、場所に関してはかなり厳しいです。ましてや「地域の理解」「支援者の確保」となると、自分で準備することには限界があります。

わかりづらい障害である、わかりづらいしんどさがある、そこを「わかってもらうには」各学校／地域／堺市の支援がぜひとも欲しいところです。そこで防災という観点で、障害児家族が地域で暮らす支援を、各立場から応援いただければと思います。

『障害児のための防災』を考えるプロジェクト

主催： NPO法人 ピーす

後援： 堺市 堺市社会福祉協議会 堺市身体障害者(児)団体連絡協議会

協力： 大阪府立和泉養護学校 大阪府立堺養護学校 大阪府立堺聾学校

大阪府立泉北養護学校 堺市立百舌鳥養護学校

自立生活支援センターマイロード 地域生活支援センターナイスネット

総合生活支援センターえると 堺市社協ふれあいピアセンター

生活支援センター堺あけぼの 障害者生活支援センターファイト

障害者(児)生活支援センターおおはま

障害者(児)生活支援センター白鷺園

地域生活支援センターフィットウェル

障害者地域生活支援センターうてな 堺市立第1つぼみ園

冊子制作協力： 堺市手をつなぐ育成会

実施したアンケート調査はかなり詳細な内容でした。

そのすべての集計や分析は別の資料にしております。

ご入用の方はお知らせください。

NPO法人ピーす 堺市百舌鳥梅町3丁39-18

電話 072-250-9060 FAX 072-250-9061

ホームページ <http://p-s-sakai.net/>